

# 北九州市環境未来都市

<sup>まち</sup>  
地域や都市の中で人が輝く、賑わい・安らぎ・活力のあるまち  
～公害を乗り越えた経験と持続的に創造するイノベーションを活かして～



## 計画書【概要版】

平成24年5月 計画策定

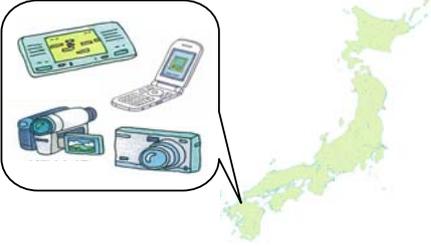
## 北九州市環境未来都市計画 【概要版】

目指すべき将来像	
コンセプト	地域や都市(まち)の中で人が輝く、賑わい・安らぎ・活力のあるまち ～公害を乗り越えた経験と持続的に創造するイノベーションを活かして～
環境面	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域でつくったエネルギーを賢く使い、地球温暖化に歯止めをかけるまち</li> <li>②きれいな空気や水に恵まれ、豊かな自然を守り続けるまち</li> <li>③資源・廃棄物が、最適な物質循環のもとに安全にマネジメントされているまち</li> <li>④環境をキーワードに、世界とつながり貢献するまち</li> <li>⑤「環境」が市民の誇りのまち</li> </ul>
社会面	<ul style="list-style-type: none"> <li>①住み慣れた地域で健やかに暮らせるまち</li> <li>②高齢者が健康でいきいきと社会に貢献できるまち</li> <li>③地域の人に見守られて子どもを生子、育てることができるまち</li> <li>④多世代が共生し、「知恵」、「元気」、「安全・安心」を分かち合うまち</li> <li>⑤高齢者を含め、あらゆる世代が豊かに暮らせるコンパクトなまち</li> <li>⑥災害に強く、備えのある安全で安心なまち</li> </ul>
経済面	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新たな産業や高い付加価値をもった産業が次々と生まれ、雇用や所得が拡大するまち</li> <li>②環境分野やコミュニティ分野などで、高齢者や女性も働くことができるまち</li> <li>③国内外の多様な人材、技術が行き交うまち</li> <li>④環境に関する世界の交易拠点として、技術・ノウハウを海外にビジネス展開するまち</li> <li>⑤地域としての強いエネルギー体制が確立したまち</li> </ul>

### ■環境未来都市のイメージ



【環境】 低炭素・省エネルギー	
課題・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域でエネルギーを賢く無駄なく使いこなす都市を目指す</li> <li>○再生可能エネルギーを中心に多様なエネルギー源を持つ都市を目指す</li> <li>○環境に優しい交通体系を構築した低炭素な都市を目指す</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○温室効果ガス排出量：1,560万トンのCO2/年(H23) ⇒1,180万トンのCO2/年(H37)</li> <li>○新たに整備する再生可能エネルギーの発電能力 ：約4万kW(H23) ⇒約73万kW(H37)</li> <li>○環境に優しい交通体系の構築による温室効果ガス排出量の削減 ：3,315トンのCO2/年(H23) ⇒2,362トンのCO2/年(H37)</li> </ul>
主な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域エネルギーマネジメント機能を実装した低炭素街区の形成・普及 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州スマートコミュニティ創造事業</li> <li>・城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業</li> </ul> </li> <li>■再生可能エネルギー等の導入と普及(多様な次世代エネルギーが揃った都市) <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な場所における省エネ促進・再生可能エネルギー導入</li> <li>・大規模太陽光発電・風力発電の導入促進</li> <li>・小倉都心・黒崎副都心の低炭素型まちづくり推進</li> <li>・市民や事業者向けの再生可能エネルギー導入費用補助</li> <li>・グリーンイノベーション研究開発の推進</li> </ul> </li> <li>■環境にやさしい交通体系の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な公共交通軸の高機能化</li> <li>・自転車利用環境の向上</li> <li>・モビリティ・マネジメントの推進</li> <li>・モーダルシフトの推進</li> <li>・次世代自動車の普及</li> </ul> </li> </ul>  <p>スマートコミュニティ創造事業 (地域節電所)</p>
【環境】 水・大気	
課題・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○途上国の主要都市を中心に現地の人々と協力して対象地域の特性に応じた環境改善に取り組み、世界に貢献する都市を目指す</li> <li>○海外の技術者や研究者が行き交う都市を目指す</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○戦略的国際環境協力事業の件数 ：3件/年(平成22年度) ⇒10件/年(平成37年度)</li> <li>○国際環境研修員の受入人数 ：5年間(平成18年～平成22年)2,077人 ⇒5年間(平成33年～平成37年)3,000人</li> </ul>
主な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■戦略的環境国際戦略</li> <li>○アジア各地域の特性に応じた最適な技術の移転、実践的な環境専門人材の育成など革新的な環境協力の案件を形成する <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的環境人材育成拠点の形成</li> </ul> </li> <li>○相手都市も主体的に関わるような、環境関係国際研修のプログラムを増加させ、より広い地域からの研修を受け入れと、途上国への専門家派遣を増加させる <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的環境国際協力の推進</li> </ul> </li> </ul>  <p>実践的環境人材育成</p>

【環境】 自然環境・生物多様性	
課題・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民が多様な自然と触れ合うことができる都市を目指す</li> <li>○多世代の地域住民が環境保全の取組を行うなど、社会的な連帯感が回復・維持されている都市を目指す</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生物多様性(曾根干潟、響灘ビオトープなど多様な生態系が確立されている地域における生きもの生息状況) <ul style="list-style-type: none"> <li>生物種数の保全 <ul style="list-style-type: none"> <li>・曾根干潟の生物種数 約120 種(H22)⇒種の減少0(H37)</li> <li>・響灘ビオトープの生物種数 約550 種(H22)⇒種の減少0(H37)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○エコツアーに参加する環境人材 <ul style="list-style-type: none"> <li>10 万人(H22)⇒100 万人(H37)</li> </ul> </li> </ul>
主な取組内容	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>■まちな森プロジェクト ～都市と自然の共生を目指したまちづくり～</li> <li>○環境首都100万本植樹 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい花壇・菜園～未利用市有地・公園の活用～</li> <li>・八幡東田グリーングリッド事業</li> <li>・「北九州市水と緑の基金」に基づく緑化助成制度</li> </ul> </li> <li>○里地里山の保全や利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市住民と農家の協働による訪れたくなる里地里山づくり</li> <li>・放置竹林の整備の実施</li> <li>・響灘ビオトープの整備・管理運営</li> </ul> </li> <li>■豊かな自然を活用した環境人材育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州環境みらい学習システム(ESD)の推進</li> <li>・環境修学旅行による誘客促進及び北九州ブランド化</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  <p>まちな森プロジェクト (環境首都100万本植樹)</p> </div> </div>
【環境】 3R	
課題・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高い技術により、産業活動に必要な資源を確保する資源リサイクル拠点をを目指す</li> <li>○3Rの社会システムやリサイクル技術を継続的に生み出す都市を目指す</li> <li>○市民生活に3Rが定着し、産業界では3Rを意識した企業活動が行われている都市を目指す</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使用済みリチウムイオン電池の回収量: <ul style="list-style-type: none"> <li>0(H22) ⇒約25,000トン(H37)(全国の約25%)</li> </ul> </li> <li>○使用済み太陽光発電(PV)システムについて、汎用性のあるリサイクル技術を早期確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル量: 0(H22) ⇒約80MW(H32)</li> </ul> </li> <li>○家庭ごみ発生量、リサイクル率 <ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ量: 506g(H21) ⇒450g(H37)、リサイクル率: 30.4%(H21) ⇒40%(H37)</li> </ul> </li> </ul>
主な取組内容	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>■北九州資源リサイクル拠点の形成</li> <li>○リサイクル技術等の開発と回収システムを構築する <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用済み小型電子機器等からのレアメタル回収</li> <li>・使用済みリチウムイオン電池のリユース</li> <li>リサイクル技術及びシステムの開発</li> <li>・北九州エコタウンの海外展開</li> </ul> </li> <li>○リサイクル技術の開発と回収システムを検討する <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電(PV)システムの汎用的なリサイクル技術の開発</li> </ul> </li> <li>○産学官民の協働意識を活かした全市的な3R推進活動に取り組む <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が一体となった3Rの推進</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  <p>使用済み小型電子機器 広域収集体制の確立</p> </div> </div>

【超高齢化】 地域医療	
課題・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域が一体となって健康づくりに取り組む都市を目指す</li> <li>○充実した医療サービス(リハビリテーションを含む)を安心して受けることができる都市を目指す</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康づくりの取組が充実してきたと感じる市民の増加 26.7%(H22) ⇒30.0%(H37)</li> <li>○地域医療(在宅医療など)の取組が充実してきたと感じる市民の増加 15.9%(平成22年)→ 20.0%(平成37年)</li> </ul>
主な取組内容	<p>■地域連携による健康の維持・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民、専門職、医師会、行政等が一体となって、生活習慣病等の予防、健康づくりなど、健康的な市民生活の更なる強化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病予防及び重症化予防</li> <li>・地域でGO!GO!健康づくり (市民センターを拠点とした健康づくり事業)</li> </ul> </li> </ul> <p>■救急医療体制、リハビリテーション体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本市の恵まれた医療資源を活かし、万が一の場合でも適切な救急医療を提供できる体制を整備するとともに、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、質の高い在宅医療が提供される環境づくりを進める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した救急医療体制の構築</li> <li>・市民が安心して受診できる体制づくり</li> <li>・質の高い在宅医療の提供</li> </ul> </li> </ul> <p>■障害児者の先進的リハビリテーションの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療、保育、教育の連携の下、ワンストップであらゆる障害児のニーズに対応できる西日本の拠点施設である「総合療育センター」の機能を強化し、地域障害児者医療システムの充実を図っていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児等療育支援事業</li> <li>・在宅心身障害児者家庭訪問指導事業</li> <li>・総合療育センターの再整備</li> </ul> </li> </ul>
	
【超高齢化】 地域の福祉・介護	
課題・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者が身近な地域で、自主的に健康づくりを推進する都市を目指す</li> <li>○高齢者の知恵や経験を活用することで高齢者が生きがいを持って活躍できる都市を目指す</li> <li>○支援の必要な人を地域で「見守り」「支えあい」「つなぐ」仕組みが充実した都市を目指す</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者が自分自身の健康状態を「よい」又は「まあよい」と感じる割合の増加 :38%(H22) ⇒50%(H37)</li> <li>○高齢者の知恵や経験を活用できる事業の実施と参加高齢者の増加 (就業したり自治会役員、ボランティア等社会貢献する高齢者の割合) :20%(H22) ⇒25%(H37)</li> <li>○市民が地域における見守り、支え合いのネットワークが充実してきたと感じる割合増加 :20%(H22) ⇒25%(H37)</li> </ul>

<p>主な取組内容</p>	<p>■住民主体の健康づくりの推進 ○身近な地域における高齢者の健康づくりや介護予防などの取組や、高齢者の活躍の場（生きがいづくり）づくりを支援することで、健康な高齢者を増やすとともに、高齢者が地域で互いに支えあう共助社会を醸成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康マイレージ事業</li> <li>・百万人の介護予防事業（ひまわりタイチー・きたきゆう体操）</li> <li>・公園を活用した健康づくり</li> </ul> <p>■健康で元気な高齢者をつくる多世代交流事業 ○高齢者をはじめとする地域住民が、独自の生きがいづくり、健康づくりに取り組むほか、街なかの植樹や荒廃竹林の再生など里地里山の保全に取り組み、自然環境の保全を進めるとともに、その過程において、高齢者の知恵や経験、技術を活用することで、健康で元気な高齢者を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの森プロジェクト</li> <li>・年長者研修大学校及び生涯現役夢追塾</li> <li>・高齢者いきがい活動支援事業</li> <li>・介護支援ボランティア事業</li> </ul> <p>■地域福祉ネットワーク北九州モデルの充実・強化 ○子どもから高齢者まで全ての市民が生涯を通じて、家族や地域住民とのつながりを大切にしながら、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるよう、人と人、支援と支援の結びつきを深めながら、地域社会全体で支援が必要な人を見守り、互いに支えあえる北九州独自の「地域福祉ネットワーク」の充実・強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いのちをつなぐネットワーク事業</li> <li>・地域ケアの実務者ネットワークの充実（保健・医療・福祉・地域連携システムの推進）</li> <li>・地域包括支援センターを中心とした相談支援・体制強化</li> </ul> <p>■障害者相談支援体制の整備と地域支援 ○障害の区別なく、各種の相談にきめ細かく対応する相談窓口が整備されている本市の利点を活かし、民間団体との連携のもと、生活、就労、住まいなど、あらゆる相談に対応できる体制の強化を図り、障害のある全ての人が、地域において安心・自立した生活を営むことのできる環境づくりを進めていく。</p>
<p>【超高齢化】子育て・教育</p>	
<p>課題・目標</p>	<p>○地域社会全体で子どもの教育に参画できる都市を目指す ○安心して子どもを生み育てることができる都市を目指す ○子どもが「ものづくり」の大切さを自然に身につけ、これを誇ることができる都市を目指す</p>
<p>数値目標</p>	<p>○「経済界による学校支援事業」対象校数の増加 ：対象校数 0校（H23）⇒全小・中・特別支援学校（H37） ○子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 ：52.0%（H22）⇒70%（H37）</p>
<p>主な取組内容</p>	<p>■「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育推進事業</li> <li>・スクールヘルパーの充実</li> <li>・経済界と連携した学校教育の充実</li> </ul> <p>■“北九州”「元気発進！子どもプラン」の推進 ○地域社会全体の子育て力を高め、子どもが健やかに成長し、市民一人ひとりが家庭を持つことや子どもを生み育てることの喜びを実感できる「子育て日本一を実感できるまち」の実現を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに優しいまちづくり推進事業</li> <li>・放課後児童ヘルパーの設置</li> <li>・放課後ジュニアリーダープログラムの展開</li> </ul> <p>■小児救急医療・周産期医療体制の充実 ○本市が全国に先駆けて整備してきた周産期・小児医療体制の一層の充実を図り、安心して子どもを産み、育てることができる環境づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が安心して受診できる体制づくり</li> <li>・小児医療先進都市づくり会議</li> </ul>



いのちをつなぐネットワーク事業



## 【地域独自】復興支援と災害リスクの軽減

<p>課題・目標</p>	<p>○環境未来都市での取組の成果(エネルギーマネジメントやリサイクル等)を活用して東日本大震災の被災地の復興に貢献する都市を目指す ○我が国全体の危機管理の一翼を担う都市を目指す</p>
<p>数値目標</p>	<p>○北九州スマートコミュニティの成果を東日本大震災被災地の復興に活用する 当面、岩手県釜石市の復興を支援するとともに、国(復興庁)とも協議をしながら対応を検討 ○災害によるITシステム障害のリスクに対応した災害復旧ITサービスの拠点化 最重要施設であるデータセンターの延床面積 15,000 m<sup>2</sup>(H23) ⇒50,000 m<sup>2</sup>以上(H37)</p>
<p>主な取組内容</p>	<p>■震災被災地復興支援 ○北九州スマートコミュニティ創造事業の実証で得た成果や経験を東日本大震災の被災地の復興に役立てる ・スマートコミュニティ創造事業などの成果を活用した被災地復興支援(岩手県釜石市)</p> <p>■ディザスタリカバリ拠点の形成 ○北九州地区に日本のディザスタリカバリ拠点を構築す。 ・ディザスタリカバリ拠点性のさらなる向上のために必要な基盤集積、新サービスの創出</p> <div data-bbox="1021 571 1460 929" style="text-align: right;"> <p>北九州スマートコミュニティ創造事業</p> </div>

## 【地域独自】国際環境ビジネス

<p>課題・目標</p>	<p>○スマートコミュニティ創造事業の実証による製品やエネルギーマネジメントシステムをパッケージ化するなど、ビジネス展開する都市を目指す ○民間企業の持つ優秀な技術力と北九州市の持つ事業管理ノウハウをパッケージ化し、海外ネットワークを活用して官民一体となって、アジアで水ビジネスを展開する都市を目指す</p>
<p>数値目標</p>	<p>○アジア低炭素化センターを核とした北九州市発の国際ビジネス案件(契約額)の増加 案件数1件(H22) ⇒約100件(H37累計) ○上下水道に関する技術・ノウハウをパッケージ化し、海外に輸出する 0円(H22) ⇒国が目標にしている日本勢のシェア拡大の一翼を担う ※ 国の目標: H37の水ビジネス市場31兆円(民営分)のうち、日本勢でシェア6%を獲得</p>
<p>主な取組内容</p>	<p>■アジア低炭素化センター ○アジア低炭素化センターを中核とし、スピード感をもって企業の環境ビジネスの海外展開を支援し、地域経済の活性化を目指す ・環境関連技術や行政のノウハウのパッケージ化 ・海外とのネットワークを活用したマーケティング活動 ・企業の環境ビジネスの海外展開支援 ・中国・北京環境交易所との協定に基づく、温室効果ガスの二国間クレジットの仕組みづくりの拠点化</p> <p>■スマートコミュニティ創造事業の海外展開</p> <p>■官民連携による海外水ビジネスの展開 ○上下水道の計画から施設整備、管理運営にいたるパッケージビジネスをアジア等で展開する ・「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸にした案件形成活動 ・ウォータープラザ北九州を中核とした「水ビジネスの国際戦略拠点」づくり</p> <div data-bbox="973 1534 1460 1892" style="text-align: right;"> <p>ウォータープラザ北九州</p> </div>

# 取組みの方針方策

<p>体制</p>	
<p>プロジェクトマネジメントの方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体のマネジメント             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトマネージャーを中心にしたコンソーシアムがその役割を担う。</li> <li>・プロジェクトマネージャーは、コンソーシアムを代表する。</li> </ul> </li> <li>○個別事業のマネジメント             <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業が主体となって実施するものは、当該民間企業がビジネスの一環としてマネジメントする。</li> <li>主として企業経営の視点からの事業判断し、コンソーシアムの各部会に報告。</li> <li>・行政が実施主体となる事業は、北九州市独自の行政評価(事業の方向性、目的達成度、有効性等を評価)等も踏まえ、コンソーシアムの各部会に報告。</li> <li>・コンソーシアムでは、関係部会において各分野における取組の進捗状況の確認や事業相互の連絡調整などを行う。</li> </ul> </li> <li>○外部評価機関の設置             <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価・意見を加味することでプロジェクトマネジメントの実効性を高める。</li> </ul> </li> </ul>
<p>都市間連携・ネットワークの活用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海外との都市間連携・ネットワーク             <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで長年の信頼関係を環境国際ビジネスや福祉ビジネス等に活用する。</li> <li>・東アジア経済交流機構(3カ国・10都市)やアジア環境都市機構(19カ国・173都市)及び(財)北九州国際技術協力協会(KITA)の世界138カ国・6,200人にのぼる人的ネットワーク等を活用して情報の収集・発信に努め、ベストプラクティスの取り込みや普及を図る。</li> </ul> </li> <li>○国内の都市間連携・ネットワーク             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体として共通の課題を有することも多いことから、相互に情報交換・意見交換を行い、超高齢社会対応等の課題への対応についても協力し解決を図る。</li> <li>・低炭素都市推進協議会では、会員都市の取組の中からベストプラクティスを選び公表することで、非会員も含めた全国の自治体が導入を進め、低炭素社会の実現を目指すシステム(仕組み)を構築している。このような既存の仕組みを活用する。</li> </ul> </li> </ul>



環境未来都市 北九州市

©teitan, City of Kitakyushu